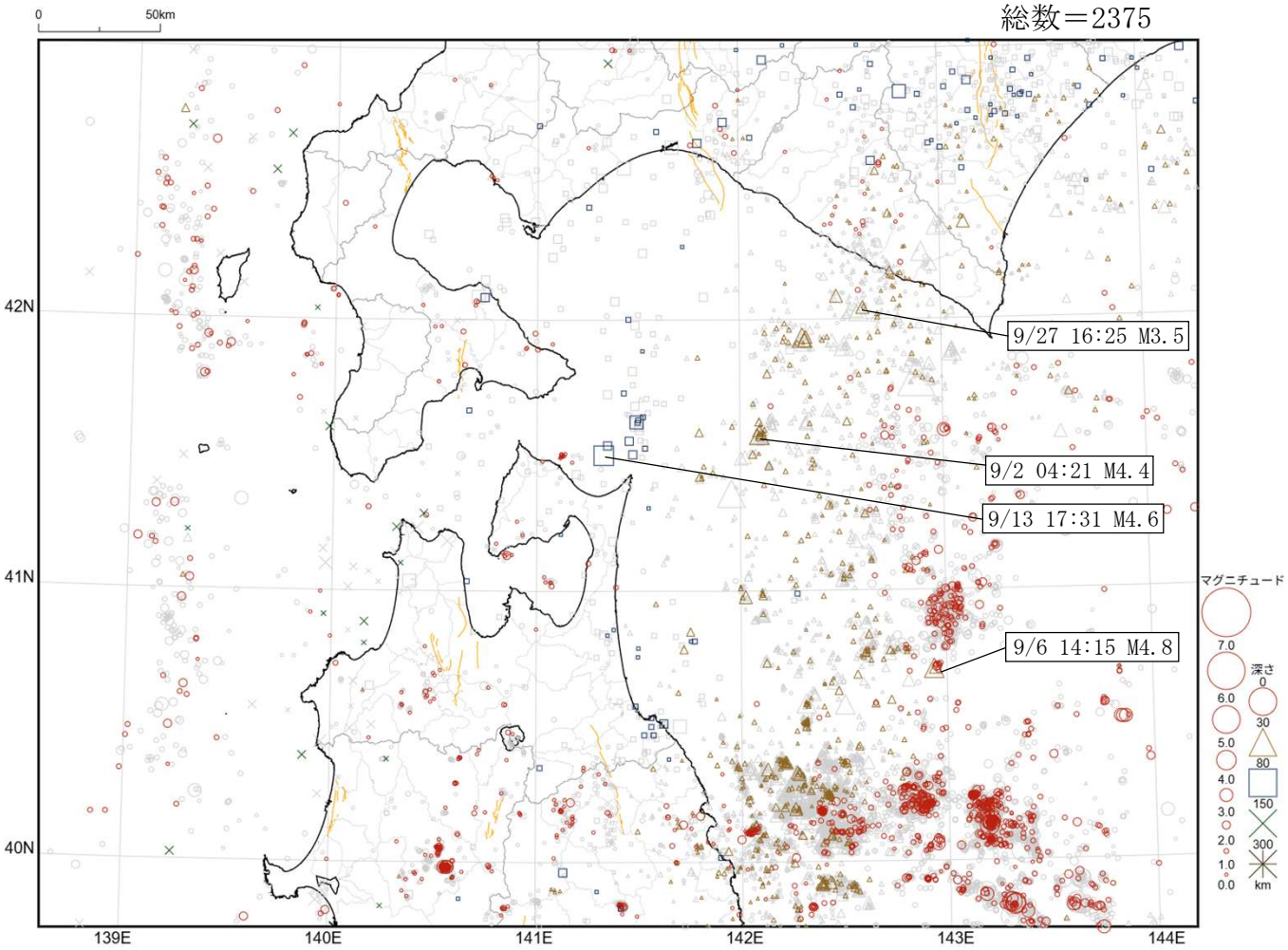
渡島・檜山地方の地震活動図

2026年9月

函館地方気象台

震央分布図



・図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
・過去の地震と比較するため、前３ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
・本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

地震概況（2026年9月）

この期間、渡島・檜山地方の震度観測点において震度１以上を観測した地震は４回（８月は14回）ありました。主な地震は以下の通りです（詳細は「渡島・檜山地方で震度１以上を観測した地震の表」参照）。

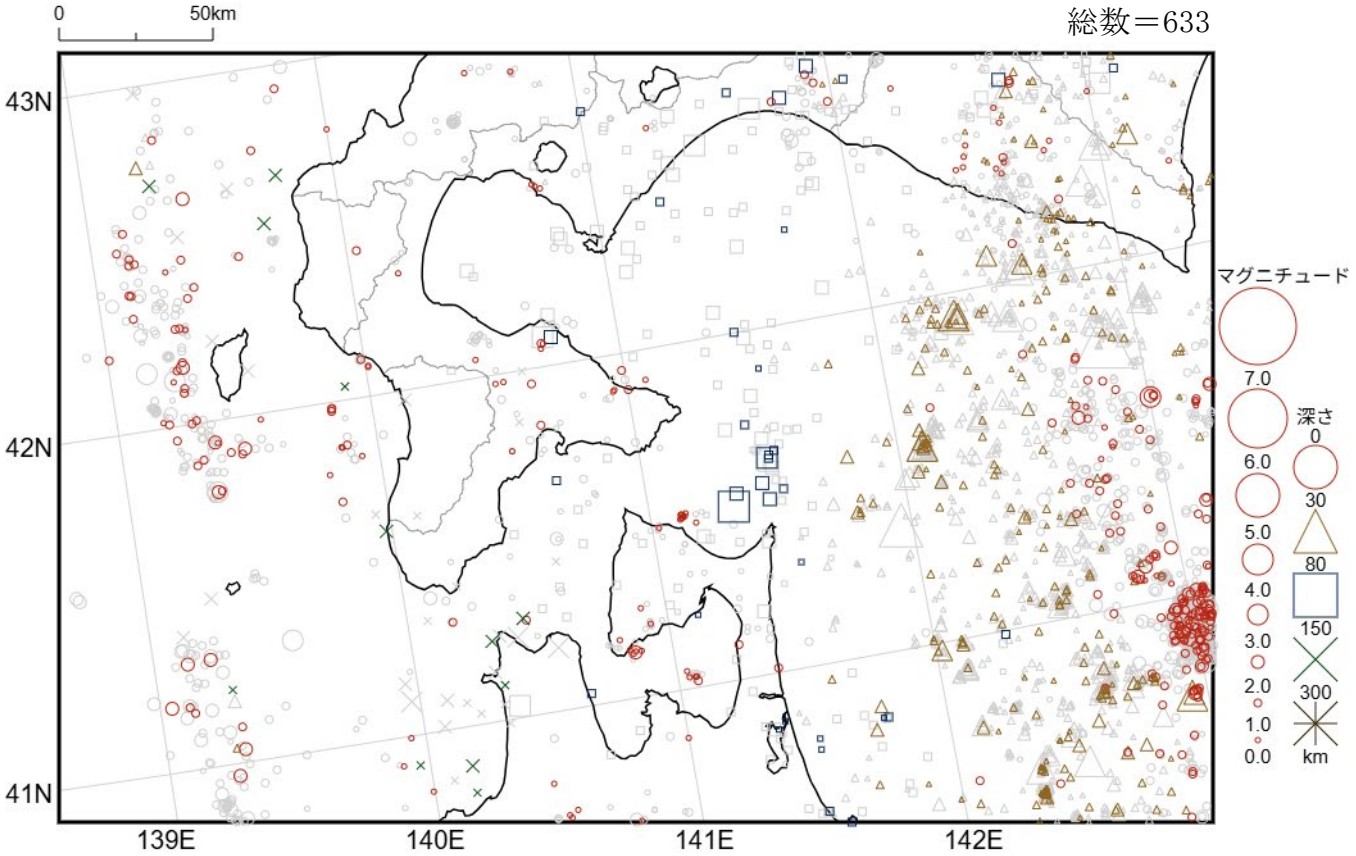
２日04時21分、青森県東方沖の地震（M4.4、深さ54km）により、函館市泊町で震度２を観測しました。

13日17時31分、津軽海峡の地震（M4.6、深さ121km）により、函館市泊町で震度３を観測したほか、渡島・檜山地方で震度２～１を観測しました。

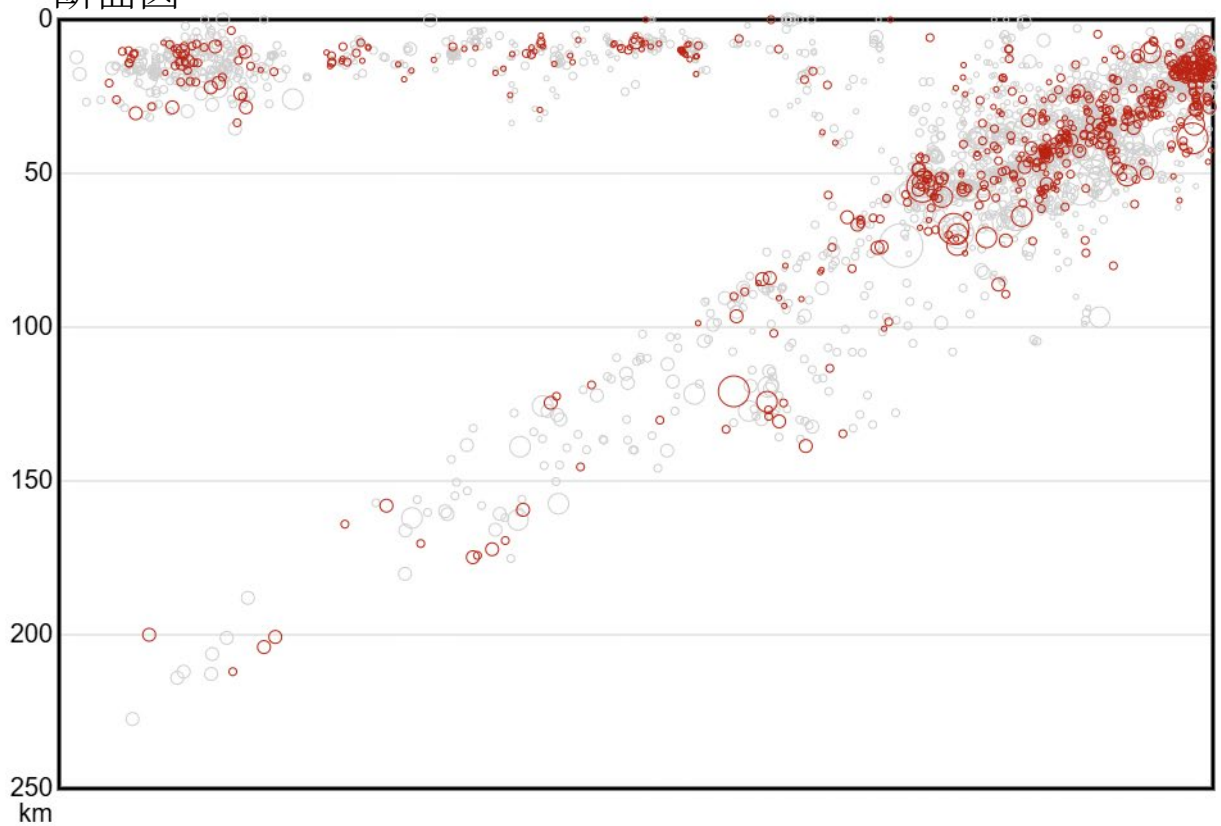
この活動図は、函館地方気象台のホームページに掲載しています。
https://www.data.jma.go.jp/hakodate-c/statistics/earthquake-report.html
この資料に関する問い合わせ先　函館地方気象台　TEL　0138-46-2211

2026年9月

震央分布図



断面図

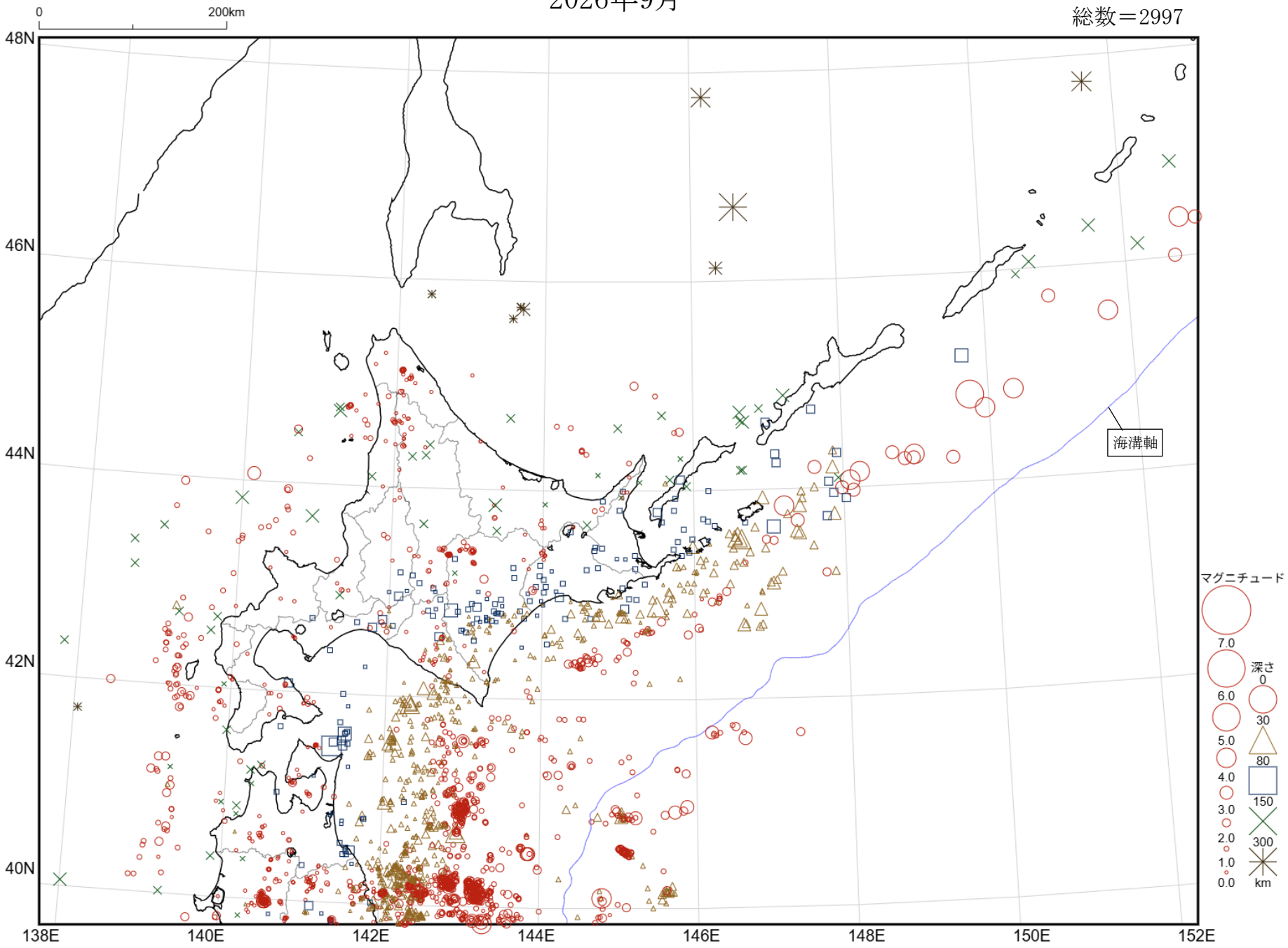


北海道の地震活動図

震央分布図

2026年9月

総数＝2997



渡島・檜山地方で震度１以上を観測した地震の表
（2026年9月）

	年　月　日 地方	時　分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯（N）	東経（E）	深さ（ｋｍ）	規模（M）
1	2026年 9月 2日 渡島地方	04時21分 震度２	青森県東方沖 函館市泊町＊(17)	41° 34.5′ N	142° 05.6′ E	54ｋｍ	M4.4
2	2026年 9月 6日 渡島地方	14時15分 震度１	青森県東方沖 函館市泊町＊(14)　函館市新浜町＊(10)	40° 42.5′ N	142° 56.2′ E	39ｋｍ	M4.8
3	2026年 9月13日 渡島地方 檜山地方	17時31分 震度３ 震度２ 震度１ 震度１	津軽海峡 函館市泊町＊(31) 函館市新浜町＊(20)　函館市日ノ浜町＊(20) 函館市美原(05)　函館市大森町＊(07)　函館市川汲町＊(09)　七飯町桜町(07) 七飯町本町＊(08)　渡島森町上台町＊(05)　福島町福島＊(08) 上ノ国町小砂子＊(05)	41° 30.0′ N	141° 19.7′ E	121ｋｍ	M4.6
4	2026年 9月27日 渡島地方	16時25分 震度１	浦河沖 函館市川汲町＊(05)	42° 02.6′ N	142° 36.7′ E	64ｋｍ	M3.5

＊のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。
（　）内の数値は0.1単位の詳細な震度（計測震度）の小数点を省略して表しています。

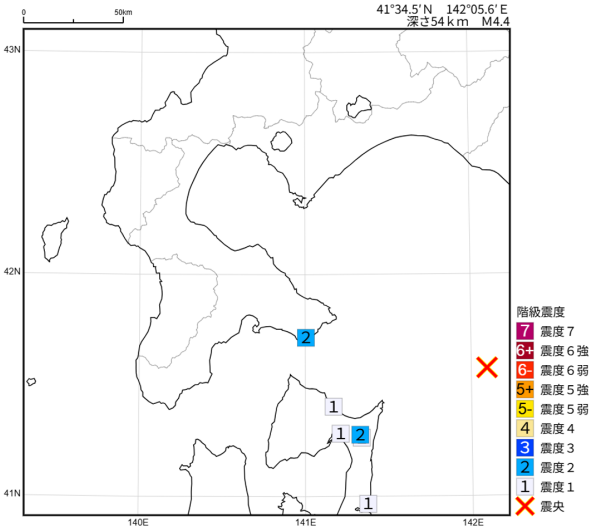
計測震度と震度階級の関係

計測震度	～0.4	0.5～1.4	1.5～2.4	2.5～3.4	3.5～4.4	4.5～4.9	5.0～5.4	5.5～5.9	6.0～6.4	6.5～
震度階級	0	1	2	3	4	５弱	５強	６弱	６強	7

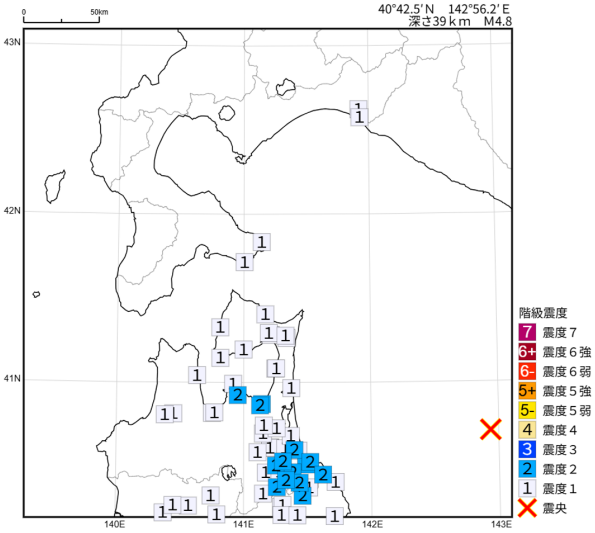
本資料の利用にあたって

・本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

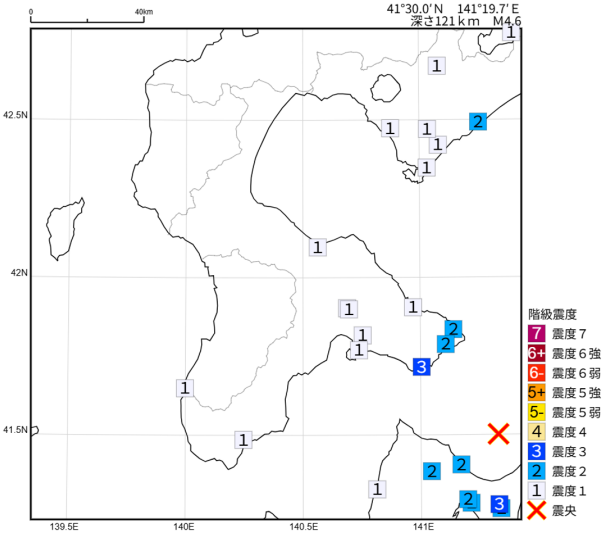
2026年 9月 2日　04時21分　青森県東方沖の地震の震度分布図



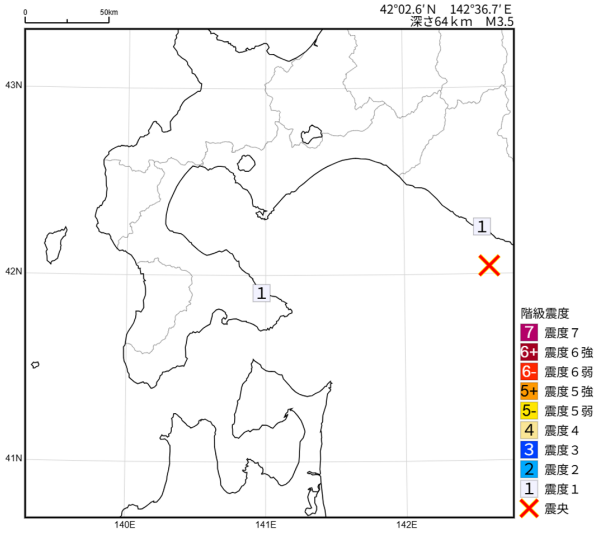
2026年 9月 6日　14時15分　青森県東方沖の地震の震度分布図



2026年 9月13日　17時31分　津軽海峡の地震の震度分布図



2026年 9月27日　16時25分　浦河沖の地震の震度分布図



【防災メモ】
～11月5日は津波防災の日･世界津波の日～

●津波防災の日・世界津波の日とは

平成23年（2011年）３月11日に発生した東日本大震災を教訓として、同年６月に津波対策を総合的かつ効果的に推進することを目的とした「津波対策の推進に関する法律」が制定されました。その中で、国民の間に広く津波対策についての理解と関心を深めるために、11月５日を「津波防災の日」とすることが定められました。11月５日（旧暦）は安政元年（1854年）に、「稲むらの火」※1のモデルとなった安政南海地震が発生した日です。さらに、平成27年の国連総会では11月５日を「世界津波の日」とすることが採択され、津波防災の新たな取り組みが始まりました。

※1「稲むらの火」
海辺の村を大津波が襲った際、村の郷士が積み上げられた稲束の「稲むら」に火を放ち、暗闇の中で多くの村人を高台に導いて救ったという物語。戦前の国語教科書に掲載され、現在も津波防災教材として国内外で高く評価されています。

●緊急地震速報訓練に参加しましょう

津波から安全に避難するためには、まず地震の揺れでけがをしないことが大切です。緊急地震速報はそのために役に立つ情報であり、訓練に参加して実際に体を動かす経験をしておくことで、とっさの時に安全行動を取りやすくなります。毎年11月５日の「津波防災の日」やその前後には、緊急地震速報の全国的な訓練を国の機関や地方公共団体のほか、学校、民間企業等や個人にも幅広く呼びかけて実施しています（「シェイクアウト訓練」※2が行われる場合もあります）。もしもの時にご自分の命を守るため、積極的にご参加ください。
（今年度の訓練はこちら https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/kunren/kunren.html）

※2「シェイクアウト訓練」
2008 年にアメリカで始まった地震防災訓練で、同じ日時に参加者が一斉に、地震から身を守るための３つの安全行動（右図）を各人がいる場所（職場、学校、外出先等）で約１分間行うものです。

出典：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議（http://www.shakeout.jp/）

●津波から身を守るために

津波警報等を見聞きした時、強い揺れを感じた時はすぐに高いところへ避難！

危険な場所を確認しよう

津波に襲われる恐れのある場所をハザードマップや周辺地形から確認しておきましょう。

津波注意

避難場所を確認しよう

津波避難ビルや津波避難場所がどこにあるか、また避難経路などを周りの人と確認しておきましょう。

津波避難ビル・津波避難場所

避難訓練に参加しよう

実際に避難経路をたどってみるなど、積極的に訓練に参加しましょう。